

第5次とよおか教育プラン
(豊岡市教育振興基本計画)

2025年度実践計画
検証総括シート

【 年度末検証結果 】

(2026.4.14現在)

目 次

2025年度実践計画 施策・取組（2025年度検証を実施する重点項目）	1
表記・記号の説明	2

2025年度実践計画 検証総括シート

【基本方針 1 予測困難な時代を生き抜く力を育む教育の推進】

基本的方向 1 多様性の尊重と包摂性のある教育の推進	3
基本的方向 2 「確かな学力」の育成	5
基本的方向 3 「豊かな心」の育成	7
基本的方向 4 「健やかな体」の育成	9
基本的方向 5 「生きる力の基礎」の育成	11

【基本方針 2 自分らしく安心して過ごせる学校園の創造と家庭・地域等との共創】

基本的方向 1 学校園・家庭・地域等の連携・協働の推進	14
基本的方向 2 安全・安心な教育の推進と教育環境の整備	16
基本的方向 3 教職員の資質・能力の向上	18
基本的方向 4 学校園の組織力の強化	20

第5次とよおか教育プラン 2025年度実践計画 施策・取組

●…2025年度検証を実施する重点項目

基本方針1 予測困難な時代を生き抜く力を育む教育の推進		担当課
基本的方向1 多様性の尊重と包摂性のある教育の推進		
施策① つながりのある特別支援教育		
3	● 3 スーパーバイザー支援事業の実施	こども支援課
4	● 4 学びの継続による、すべての教職員の専門性の向上	学校教育課
施策② いじめ・不登校等への対応		
7	● 2 一人一人の多様なニーズに応じた不登校対策の推進	学校教育課
施策③ 多様性・ジェンダー視点に立った教育の推進		
9	● 1 多様性・ジェンダーに関する教育(オリジナル絵本の活用)	多様性・推進ジェンダーギャップ対策課
基本的方向2 「確かな学力」の育成		
施策① 新しい時代に求められる資質・能力の育成		
12	● 1 非認知能力向上のための取組の推進	学校教育課
施策③ 小中一貫教育を核とした一層の連携教育		
16	● 1 ローカル&グローバル学習の時間の充実	学校教育課
施策④ 幼児期から児童期への円滑な接続		
18	● 1 架け橋期のカリキュラムを活用した園小接続の実践	幼児育成課 学校教育課
基本的方向3 「豊かな心」の育成		
施策⑤ 読書活動の充実		
26	● 1 読書の習慣化と質の向上をめざした読書活動の推進	学校教育課 教育総務課
基本的方向4 「健やかな体」の育成		
施策① 望ましい生活習慣の形成を図る健康教育・食育		
28	● 1 規則正しい生活習慣(食事、運動、睡眠)の確立	学校教育課
施策② 体力・運動能力の向上		
31	● 1 豊岡市版小学校体育準備運動の共通実践と運動習慣の確立をめざした体育授業の充実	学校教育課
基本的方向5 「生きる力の基礎」の育成		
施策① 健康な体をつくる力の育成		
33	● 1 幼児期における運動遊びの充実	幼児育成課
施策② 人と関わる力の育成		
35	● 1 遊びを通じた人と関わる経験の積み重ね	幼児育成課
施策④ 自然や身近な環境に関わる力の育成		
38	● 1 自然や身近な環境に関わる経験の積み重ね	幼児育成課
基本方針2 自分らしく安心して過ごせる学校園の創造と家庭・地域等との共創		
基本的方向1 学校園・家庭・地域等の連携・協働の推進		
施策② 地域コミュニティ組織と連携した学びの推進		
46	● 1 コミュニティ・スクールを核とした地域学校協働活動の充実	学校教育課
基本的方向2 安全・安心な教育の推進と教育環境の整備		
施策① 施設の計画的な改修とICT環境整備等教育環境の整備・充実		
54	● 2 ICT環境の整備	教育施設課
施策④ 学校園の再編		
58	● 1 「豊岡市立小中学校適正規模・適正配置計画」に基づく学校再編の推進	教育施設課
基本的方向3 教職員の資質・能力の向上		
施策① 教職員の資質と実践的指導力の向上		
63	● 1 教員の指導力の向上を図る校内研修等の充実	学校教育課
基本的方向4 学校園の組織力の強化		
施策② 働きがいのある学校づくり		
71	● 1 学校園における働き方改革の推進	学校教育課

【表記・記号の説明】

1 指標項目について

(1) 「■」印の指標項目

全国学力・学習状況調査（2025年4月14日実施・7月31日結果公表）の結果の数値を使用。従って、実施年度の数値は前年度の取組が反映すると捉えられるが、実施年度の結果を目標値に対応させて評価することとする。

(2) 「□」印の指標項目

全国学力・学習状況調査以外の全国調査や各担当課による独自調査、取組による結果の数値を使用する。

2 指標数値について

(1) 2024現状値

- ・原則は2024年度の実績値を表記するが、取組によっては前年度の実績値を表記する。この場合においては、当該年度を〔 〕で表記する。

(2) 2025目標値

- ・2025年度に到達すべき目標値を設定する。

※■印の指標（全国学力・学習状況調査結果を使用）について、原則、目標値を「全国平均＋5ポイント」に設定している。

(3) 2025指標の実現状況

- ・原則は2025年度の実績値を表記するが、取組によって前年度の実績値を表記するものがある。この場合は〔 〕内に当該年度を表記する。
- ・2025指標の実現状況のうち、（ ）内は2025目標差を、「○」印は2024現状値よりも改善した指標を表す。

3 その他

取組の内容や指標において、「小学校」には「義務教育学校前期課程」を、「中学校」には「義務教育学校後期課程」を含む。

また、小学校または中学校の学年には、義務教育学校における該当する学年を含む。

（例：「小学校6年生と中学校1年生」には、義務教育学校6年生、7年生を含む）

第5次とよおか教育プラン(豊岡市教育振興基本計画)

2025年度実践計画検証総括シート

基本方針1	予測困難な時代を生き抜く力を育む教育の推進
基本的方向1	多様性の尊重と包摂性のある教育の推進
	<p>すべての子どもたちが自分らしく学ぶためには、発達特性や障害の有無、固定的な性別役割分担意識、外国にルーツを持つ子どもへの対応、言語的背景、貧困や家庭環境等、様々な事情・背景による多様な教育的ニーズに対して、一人一人の課題に応じた適切な対応が必要である。加えて、無意識の思い込み(アンコンシャス・バイアス)等の払拭が不可欠であり、それは学校のみならず社会全体で重視していくべきことである。</p> <p>そのためにも学校教育において、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な取組が重要となる。</p> <p>その実現に向けて、①つながりのある特別支援教育、②いじめ・不登校等への対応、③多様性・ジェンダー視点に立った教育の推進に取り組む。</p>

[指標の検証]

指標名	2024現状値	2025目標値	2025指標の実現状況
<input checked="" type="checkbox"/> 学校に行くのが楽しいと思う児童生徒の割合	小 88.5% 中 85.9%	小 89.8% 中 88.8%	小 88.6% (-1.2P) ○ 中 91.3% (+2.5P) ○
<input type="checkbox"/> いじめはどんな理由があってもいけないことだと思う児童生徒の割合	小 96.7% 中 96.6%	小 100% 中 100%	小 98.5% (-1.5P) ○ 中 96.9% (-3.1P) ○
<input type="checkbox"/> 不登校児童生徒の割合	小[2023] 1.39% 【2023全国 2.16%】 中[2023] 6.23% 【2023全国 7.04%】	小 2024現状値以下 中 2024現状値以下	小[2024]1.83% (-0.44P) 中[2024]6.76% (-0.53P)
<input type="checkbox"/> オリジナル絵本「みらいへのつばさをひろげて」を教育・保育に活用した学校園の割合 園	—	園 100% 小 100% 中 100%	園 88.0% (-12.0P) 小 77.3% (-22.7P) 中 88.9% (-11.1P)

■・・・ 全国学力・学習状況調査の児童生徒質問紙を用いて評価を行う指標。

□・・・ 各所管課の事業や独自調査などの結果により評価を行う指標。

※ 全国学力・学習状況調査

国・公・私立学校の小学6年生と中学3年生を対象に実施する、国語、算数・数学の教科に関する調査及び生活習慣や学習環境等に関する調査。(4月実施、7月結果公表)

※ 2025指標の実現状況のうち、()内は対2025目標差を、○印は2024現状値よりも改善した指標を表す。

担当課検証 (取組の継続等)	S 目標達成・取組完了 (目標達成、事業計画完了による取組終了)	検証委員検証 (担当課評価の 妥当性)	○ 妥当
	A 継続実施 (拡充・現行方法による継続実施)		△ 疑義あり
	B 改善実施 (取組の改善・見直しによる継続実施)		— 評価不能
	C 抜本的見直し (取組を継続する場合は抜本的な見直しが必要)		
D 取組廃止 (効果・必要性等から取組を廃止)			

〔施策と取組の自己検証〕

施策 ① つながりのある特別支援教育	中間検証			年度末検証	担当課	
	担当課	検証委員会				
		委員A	委員B			委員C
3 スーパーバイザー支援事業の実施	A	○	○	○	A	こども支援課
4 学びの継続による、すべての教職員の専門性の向上	A	○	○	○	A	学校教育課

施策 ② いじめ・不登校等への対応	中間検証			年度末検証	担当課	
	担当課	検証委員会				
		委員A	委員B			委員C
2 一人一人の多様なニーズに応じた不登校対策の推進	A	△	○	○	A	学校教育課

施策 ③ 多様性・ジェンダー視点に立った教育の推進	中間検証			年度末検証	担当課	
	担当課	検証委員会				
		委員A	委員B			委員C
1 多様性・ジェンダーに関する教育(オリジナル絵本の活用等)	A	○	○	○	A	多様性推進・ ジェンダー ギャップ対策課

〔委員中間検証意見〕

〔担当課年度末検証〕

<p>施策①-3 全ての子どもにとって、わかりやすい授業づくりを行うことや、子どもに寄り添う方法の質を高めるためにも必要な施策であると考えます。</p>	<p>「支援の要らない子は一人もない」の理念に基づき、スーパーバイザーの指導助言を参考にし、担任等によるアセスメントを丁寧に行い、子どもへの寄り添い方や授業の質の向上に向け継続実施していきます。</p>
<p>施策①-3.4 豊岡市以外の専門家からの学びも大切だと思ふ反面で、豊岡市内で多様な特性をもつ子どもたちに関わっている団体の現場での子どもたちの様子を聞くことで、豊岡市内で実際に起きていることを共有し、連携強化にもつながるのではないかと考える。</p> <p>今後の方向性に、市全体としての取組の方向性、市教委としての研修継続という施策が述べられているが、県立特別支援学校との連携の充実という点も組み込んだ方が良いのではないかと考える。</p>	<p>民間の事業所を含めた関係機関と協議や情報交換の場を持ち、子どもたちの実態や支援のあり方を多面的に理解するように努めています。</p> <p>また、県立特別支援学校のセンター的機能を活用し、要請のあった学校への講師派遣や研修会への招聘など、連携を図っています。</p> <p>引き続き、特別支援教育に関する教職員の専門性の向上に向け、計画的、継続的に研修を進めます。</p>
<p>施策②-2 9年間を見越した継続的、組織的な不登校対策は必要である。また、現場の先生方も望んでいると思うので、必要な施策であると考えます。</p> <p>子ども同士のやりとりの中には、顕在化しないことがたくさんあるはずなので、現場の方には、今のやり方を見直していただき、改善していただきたいと思います。</p>	<p>不登校等対策委員会や不登校担当者研修会を実施するとともに、各校の実践事例集を作成・配付し、取組の共有と改善を進めています。各校の実情に応じた取組の充実、新たな発想を大切に、「誰一人取り残さない」支援体制の構築に努めます。</p>
<p>施策③-1 個票の自己評価の理由の課題について、教育現場において、活用する方針が示されていたが、地域の中(図書館等)でも活用できればよいのではないかと考える。</p>	<p>地域の中での活用に向けて、図書館の本館・分館や、子育てセンターにも絵本を配布しています。より広く活用いただけるように、子どもたちとの対話のポイントや関連する教科や領域などを記載した「絵本活用の手引き」を広く周知して、子どもたちの発達段階に応じた活用や対話の促進に努めます。</p>

〔基本的方向における総括:担当課年度末検証〕

様々な困難を抱える子どもの教育的ニーズに対応するために、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な取組が重要となる。その実現に向けて、つながりのある特別支援教育、いじめ・不登校等への対応、多様性・ジェンダー視点に立った教育の推進に取り組む。さらに、就学前から卒業後まで切れ目なく一貫した支援が受けられるよう、関係機関と連携し、早期からの一貫した支援、教育相談、就学後の適切な教育に取り組んでいく。

第5次とよおか教育プラン(豊岡市教育振興基本計画)

2025年度実践計画検証総括シート

基本方針1	予測困難な時代を生き抜く力を育む教育の推進
基本的方向2	「確かな学力」の育成
	子どもたちが、自分の良さを自覚するとともに、あらゆる他者を尊重し、多様な人々と協働しながら様々な課題を解決するためには、確かな学力が必要である。 その実現に向けて、①新しい時代に求められる資質・能力の育成、②身近な課題の解決・活用に向けた探求的な学び、③小中一貫教育を核とした一層の連携教育、④幼児期から児童期への円滑な接続に取り組む。

〔指標の検証〕

指標名	2024現状値	2025目標値	2025指標の実現状況
■ 「全国学力・学習状況調査」における正答率40%以下の児童生徒の割合	小国 12.5% 小算 18.2% 中国 30.2% 中算 32.5%	小国 6.9%以下 小算 15.1%以下 中国 21.5%以下 中算 30.4%以下	小国 9.5%(-2.6P)○ 小算 31.4%(-16.3P) 中国 25.5%(-4.0P)○ 中算 47.2%(-16.8P)
■ 国語、算数、数学の勉強が好きだと思っている児童生徒の割合	小国 63.4% 小算 61.7% 中国 57.3% 中算 55.0%	小国 67.0% 小算 66.0% 中国 69.3% 中算 62.2%	小国 61.9%(-5.1P) 小算 57.9%(-8.1P) 中国 54.1%(-15.2P) 中算 54.4%(-7.8P)
■ 話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思う児童生徒の割合	小 89.6% 中 89.7%	小 91.3% 中 91.1%	小 90.6%(-0.7P)○ 中 88.4%(-2.7P)
■ 授業で学んだことを、次の学習や実生活に結びつけて考えたり、生かしたりすることができると思う児童生徒の割合 ㊦	小 88.0% 中 80.0%	小 88.7% 中 84.0%	小 84.9%(-3.8P) 中 79.0%(-5.0P)
■ 総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなど、の学習活動に取り組んでいる児童生徒の割合 ㊦	小 84.8% 中 86.5%	小 86.3% 中 87.2%	小 86.2%(-0.1P)○ 中 85.9%(-1.3P)
■ 地域や社会をよくするために何をすべきか考えることがある児童生徒の割合	小 87.0% 中 85.4%	小 88.5% 中 2024現状値以上	小 87.1%(-1.4P)○ 中 82.2%(-3.2P)

■・・・全国学力・学習状況調査の児童生徒質問紙を用いて評価を行う指標。

□・・・各所管課の事業や独自調査などの結果により評価を行う指標。

※ 全国学力・学習状況調査

国・公・私立学校の小学6年生と中学3年生を対象に実施する、国語、算数・数学の教科に関する調査及び生活習慣や学習環境等に関する調査。(4月実施、7月結果公表)

※ 2025指標の実現状況のうち、()内は対2025目標差を、○印は2024現状値よりも改善した指標を表す。

担当課検証 (取組の継続等)	S 目標達成・取組完了 (目標達成、事業計画完了による取組終了)	検証委員検証 (担当課評価の 妥当性)	○ 妥当
	A 継続実施 (拡充・現行方法による継続実施)		△ 疑義あり
	B 改善実施 (取組の改善・見直しによる継続実施)		— 評価不能
	C 抜本的見直し (取組を継続する場合は抜本的な見直しが必要)		
D 取組廃止 (効果・必要性等から取組を廃止)			

〔施策と取組の自己検証〕

施策 ① 新しい時代に求められる資質・能力の育成	中間検証			年度末検証	担当課	
	担当課	検証委員会				
		委員A	委員B			委員C
1 非認知能力向上のための取組の推進	A	○	○	○	A	学校教育課

施策 ③ 小中一貫教育を核とした一層の連携教育	中間検証			年度末検証	担当課	
	担当課	検証委員会				
		委員A	委員B			委員C
1 ローカル&グローバル学習の時間の充実	A	○	○	○	A	学校教育課

施策 ④ 幼児期から児童期への円滑な接続	中間検証			年度末検証	担当課	
	担当課	検証委員会				
		委員A	委員B			委員C
1 架け橋期のカリキュラムを活用した園小接続の実践	A	○	○	○	A	幼児育成課 学校教育課

〔委員中間検証の意見〕

〔担当課年度末検証〕

<p>施策①-1 非認知能力と呼ばれるものが数多くある中で、「やりぬく力」、「自制心」、「協働性」の3つに絞らず、「自己肯定感」、「コミュニケーション能力」、「メタ認知」等、これまでの教育活動の中で培われてきたと思われるものを改めて検証し、意識して取り組んでいくのはどうか。</p>	<p>学校において高めることが期待できる非認知能力として、「やりぬく力」、「自制心」、「協働性」を掲げており、各学校においても、授業や学校行事にこれらの視点を取り入れた教育活動が展開されています。引き続き、成果と課題、改善等の子どもの教育活動につなげる取組を推進します。</p>
<p>施策①-1 演劇を通して、演じること・考えを出し合うこと・協力して作り上げていくことなどの経験ができ、非認知能力向上には効果的だと考える。また、教職員や保護者の参観の機会が増えたことで、みんなへの周知が出来てきたように感じるため、今後も継続して取り組んでみたい。</p>	<p>非認知能力の意義、価値については、いまや豊岡市の教育の共通言語として浸透しています。一方、目の前の一人一人の子どもに応じた関わり方は常にブラッシュアップしていく必要があります。引き続き、演劇ワークショップの授業参観、事後の振り返り研修会の実施や学校だより等の活用等、周知・啓発に努めます。</p>
<p>施策③-1 コミュニケーション能力育成と演劇的手法の関係を、子どもたちを取り巻く方々(職員、保護者、地域の方々)にもっと理解させるための取組が必要であると考えます。生徒にもしっかりと伝えられていなかったかもしれないと感じる。</p>	<p>教職員対象のコミュニケーション教育研修会の実施やオープンスクールや授業参観等で授業公開しています。引き続き、児童生徒、保護者・地域の方々に丁寧に周知・啓発していきます。</p>
<p>施策③-1 園では2週間に1度、英語遊びの巡回指導があり、楽しみながら英語に親しんでいる。1,2年生でも引き続き、楽しく英語遊びをすることによって、3年生からの英語学習にも意欲をもって取り組むことが出来るのではないかと思います。</p>	<p>園における「英語遊び保育」を小学校1・2年生での「英語遊び」へ円滑に接続し、就学前から中学校卒業までを、系統性と連続性のある学びとなるよう、今後も継続して取り組んでいきます。</p>
<p>施策④-1 今年度から、豊岡市全校、全園で共通の「架け橋プログラム」を作成することによって、園小の接続を例年以上に意識するようになったと感じる。1小学校対複数園における連携の課題はあるが、お互いに知り合うことが一番の連携だと思うので、相互参観、情報交流の機会をより充実していくことが大切だと考える。</p>	<p>全市小学校園でスタートした「架け橋プログラム」ですが、実施したアンケートでは、各学校園の状況や従来の連携の方法を活かしつつ、連携会議、相互参観等を通して相互理解や信頼関係づくりが図れたことを成果としてあげられていました。0歳からの学びを円滑に小学校以降につなげる重要性を実感したり、この取組の持続可能な方法や教育・保育に活かせるような形を見つけたりできるよう、教育委員会がコーディネートしながら協働し、この取組の充実を図ります。</p>

〔基本的方向における総括:担当課年度末検証〕

<p>子どもたちが、主体的に学習課題を設定し、個別に学んだりお互いの学びを高め合ったりする協働的な学びに加え、他教科との関連を図った教科等横断的な学習、探究的な学び等、子どもたちが主体となり、自分の良さや自己有用感などを自覚できる教育活動を充実していくことが重要である。</p> <p>様々な学びを通して、子どもたちに確かな学力(豊かな心、健やかな体)を育成していくことは、子どもたちの非認知能力の向上につながり、生きる力となっていく。引き続き、学校、家庭、地域で、様々な教育活動を非認知能力向上の視点で考え、子どもたちの学びを支える取組を推進する。</p>

第5次とよおか教育プラン(豊岡市教育振興基本計画)

2025年度実践計画検証総括シート

基本方針1	予測困難な時代を生き抜く力を育む教育の推進
基本的方向3	「豊かな心」の育成
	<p>子どもたち一人一人が自己実現に向けて、地域や社会、生活、人生をより豊かなものとしていくためには、発達段階に応じた体験活動を通じて、豊かな人間性や社会性を育成することが重要である。また、豊かな学びを身に付けるうえで必要となる、文化芸術やスポーツ・地域行事等を体験する機会を、学校園と家庭、地域、関係機関が連携し確保していくことが必要である。</p> <p>その実現に向けて、①生命の尊厳を基盤とした人権教育、②「対話」により考えを深める道徳教育、③体系的・系統的なキャリア教育、④子どもたちの発達段階に応じた体験を重視した活動、⑤読書活動の充実に取り組む。</p>

〔指標の検証〕

指標名	2024現状値	2025目標値	2025指標の実現状況
■ 将来の夢や目標を持っている児童生徒の割合	小 81.1% 中 63.1%	小 87.4% 中 71.3%	小 84.9% (-2.5P) ○ 中 65.4% (-5.9P) ○
■ 自分にはよいところがあると思う児童生徒の割合	小 87.9% 中 85.6%	小 89.1% 中 88.3%	小 87.3% (-1.8P) 中 86.4% (-1.9P) ○
□ ものごとを最後までやり遂げて、うれしかったことがあると思う児童生徒の割合	小 95.8% 中 94.4%	小 96.4% 中 98.0%	小 96.5% (+0.1P) ○ 中 94.6% (-3.4P) ○
□ 学級みんなで話し合って決めたことなどに協力して取り組み、うれしかったことがある児童生徒の割合	小 90.1% 中 91.8%	小 94.3% 中 96.0%	小 93.0% (-1.3P) ○ 中 91.5% (-4.5P)
□ 学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たり30分以上読書をする児童生徒の割合(教科書や参考書、漫画や雑誌除く)	小 30.0% 中 25.4%	小 42.3% 中 33.4%	小 30.6% (-11.7P) ○ 中 17.7% (-15.7P)

■・・・全国学力・学習状況調査の児童生徒質問紙を用いて評価を行う指標。

□・・・各所管課の事業や独自調査などの結果により評価を行う指標。

※ 全国学力・学習状況調査

国・公・私立学校の小学6年生と中学3年生を対象に実施する、国語、算数・数学の教科に関する調査及び生活習慣や学習環境等に関する調査。(4月実施、7月結果公表)

※ 2025指標の実現状況のうち、()内は対2025目標差を、○印は2024現状値よりも改善した指標を表す。

担当課検証 (取組の継続等)	S 目標達成・取組完了 (目標達成、事業計画完了による取組終了)	検証委員検証 (担当課評価の 妥当性)	○ 妥当
	A 継続実施 (拡充・現行方法による継続実施)		△ 疑義あり
	B 改善実施 (取組の改善・見直しによる継続実施)		— 評価不能
	C 抜本的見直し (取組を継続する場合は抜本的な見直しが必要)		
	D 取組廃止 (効果・必要性等から取組を廃止)		

〔施策と取組の自己検証〕

施策 ⑤ 読書活動の充実	中間検証			年度末検証	担当課	
	担当課	検証委員会				
		委員A	委員B			委員C
1 読書の習慣化と質の向上をめざした読書活動の推進	A	○	○	○	A	学校教育課 教育総務課

〔委員中間検証の意見〕

〔担当課年度末検証〕

<p>施策⑤-1 読書活動を活発化させることの重要性和、読書活動を子どもたちに指導する教職員の指導力の向上を継続的に図る必要がある。</p>	<p>「読書活動の充実に係る研究」を市の指定研修として実施し、好事例等を市内各校に共有するなど、図書教育に係る教職員の指導力の向上に努めます。</p>
<p>施策⑤-1 中学校でもボランティア等による読み聞かせの活動があったりと、読書に導く工夫がされていると思う。しかし、日々の部活動や習い事に追われ、読書に向かう余裕があまりないように感じる。 教室や図書館に、短編集や新聞のコラムをまとめた本が置かれ、少しの時間で読めるなら、文章を読むことが身近に感じられると思う。</p>	<p>朝読書、読み聞かせ、「とよおか電子図書館」の利用を継続し、読書習慣の定着を図っていきます。また、読書習慣の定着に向けて、はばたきメッセージの配布等で家庭への啓発も行っていきます。今後も市立図書館と連携し、読書活動の充実に取り組めます。 「とよおか電子図書館」でも、読書へのきっかけ作りとなるよう手に取りやすいコンテンツ(短編集等)の充実に努めます。</p>

〔基本的方向における総括:担当課年度末検証〕

<p>子どもにとって読書は、感性を磨き、心に豊かさを与えるとともに、目の前の情報を吟味して考える「クリティカルシンキング」の素地を養うなど、欠くことのできないものである。子どもたちが読書を身近に感じるために、引き続き、学校、家庭、図書館との連携を大切にしながら、読書活動の習慣化を目指した取組を進めていく。 図書館においても、学校園への団体貸出・お話し会・ブックトーク等の読書活動の推進を継続して実施する。また「とよおか電子図書館」では、多様なジャンルの本や文章にふれる機会となるコンテンツを意識して整備していく。</p>

第5次とよおか教育プラン(豊岡市教育振興基本計画)

2025年度実践計画検証総括シート

基本方針1	予測困難な時代を生き抜く力を育む教育の推進
基本的方向4	「健やかな体」の育成
	子どもたちが、生涯にわたって心身ともに健康で豊かな生活を送るために、健康で安全な生活を送り、運動やスポーツに親しむ資質・能力を育成することが重要である。 その実現に向けて、①望ましい生活習慣の形成を図る健康教育・食育、②体力・運動能力の向上に取り組む。

〔指標の検証〕

指標名	2024現状値	2025目標値	2025指標の実現状況
<input type="checkbox"/> 新体力テストにおける小学校5年生と中学校2年生の体力合計点のT得点 <small>T得点…全国体力・運動能力調査結果における全国平均値(50)に対する相対的な位置を示し、単位や標準偏差が異なる調査結果を比較する。</small>	小5男 50.9 小5女 51.0 中2男 49.8 中2女 49.9 (全国平均T得点50)	小5男 51.5以上 小5女 51.5以上 中2男 50.4以上 中2女 50.4以上	小5男 51.2%(-0.3P) 小5女 53.2%(+1.7P)○ 中2男 49.1%(-1.3P) 中2女 50.3%(-0.1)○
<input type="checkbox"/> 「運動やスポーツが好き」と回答した児童生徒の割合 ㊦	小5男 94.0% 小5女 85.9% 中2男 94.2% 中2女 76.5%	小5男 98.3% 小5女 91.2% 中2男 95.3% 中2女 81.8%	小5男 96.6%(-1.7P)○ 小5女 91.1%(-0.1P)○ 中2男 90.5%(-4.8P) 中2女 79.6%(-2.2P)○
<input checked="" type="checkbox"/> 健康に過ごすために、授業で学習したことや保健室の先生などから教えられたことを、普段の生活に役立っている児童生徒の割合 ㊦	小 81.1% 中 74.2%	小 83.0% 中 76.0%	2025全国学力・学習状況調査の質問から削除
<input type="checkbox"/> 学校給食において地場産物(市内産の野菜)を使用する割合	28.1%	30.0%	27.4%(-2.6P)

■… 全国学力・学習状況調査の児童生徒質問紙を用いて評価を行う指標。

□… 各所管課の事業や独自調査などの結果により評価を行う指標。

※ 全国学力・学習状況調査

国・公・私立学校の小学6年生と中学3年生を対象に実施する、国語、算数・数学の教科に関する調査及び生活習慣や学習環境等に関する調査。(4月実施、7月結果公表)

※ 2025指標の実現状況のうち、()内は対2025目標差を、○印は2024現状値よりも改善した指標を表す。

担当課検証 (取組の継続等)	S 目標達成・取組完了 (目標達成、事業計画完了による取組終了)	検証委員検証 (担当課評価の 妥当性)	○ 妥当
	A 継続実施 (拡充・現行方法による継続実施)		△ 疑義あり
	B 改善実施 (取組の改善・見直しによる継続実施)		— 評価不能
	C 抜本的見直し (取組を継続する場合は抜本的な見直しが必要)		
D 取組廃止 (効果・必要性等から取組を廃止)			

〔施策と取組の自己検証〕

施策 ① 望ましい生活習慣の形成を図る健康教育・食育	中間検証			年度末検証	担当課	
	担当課	検証委員会				
		委員A	委員B			委員C
1 規則正しい生活習慣(食事、運動、睡眠)の確立	A	○	○	○	A	学校教育課

施策 ② 体力・運動能力の向上	中間検証			年度末検証	担当課	
	担当課	検証委員会				
		委員A	委員B			委員C
1 豊岡市版小学校体育準備運動の共通実践と運動習慣の確立をめざした体育授業の充実	A	○	○	○	A	学校教育課

〔委員中間検証の意見〕

〔担当課年度末検証〕

<p>施策①-1 インプットの学びは、充実しつつあるようだが、さらに改善していくためには、児童生徒がアウトプットする場面があるとよいのではないかとと思われる。 また啓発活動に対する児童生徒の捉え方も気になると感じた。</p>	<p>今後も、学びを深めるために、児童生徒が規則正しい生活の意義を自分ごととして考えられるような授業や取組を進めていきます。</p>
<p>施策①-1 子育てセンターでも生活リズムや睡眠の大切さ、スマホによる脳への影響を事業等の中でテーマとして取り上げ、保護者に啓発している。乳幼児期から保護者に意識してもらうことは大切なことだと感じる。 管理栄養士による食育指導を受け、また食育だよりや保健だよりの定期的な発行により、子どもたちにとって望ましい生活習慣に関心を持ったり、家庭の意識づけになったりしている。食事・運動・睡眠は、生活リズムを整える鍵だと思うことから、今後も更に定着するために、家庭と連携を密に一人一人に合った援助や保育を繰り返していくことが必要だと考える。</p>	<p>引き続き、各学校の授業や学校園だより、小中一貫教育による各一貫ブロックの取組や、PTAや関係機関との連携を通して、規則正しい生活習慣の大切さについて継続的に啓発していきます。</p>
<p>施策②-1 小学校ごとに工夫しながら授業前の簡単な運動を取り入れている。椅子に座ったまま軽く体を動かすだけでも体がすっきりして、その後、話が入りやすいという効果を感じている子どもも多い。</p>	<p>効果的な取組については、市内での共有を検討します。</p>
<p>施策②-1 豊岡市版小学校体育準備運動は、十分に体を動かすために考えられており、子どもたちの活動量や基礎的な運動能力を維持するためにも必要な取組だと思う。また、幼児期からの全身運動が「あたまの力」と「こころの力」を育てる土台となると思うことから、中学校へもこの継続した取組を連携する必要があると感じる。</p>	<p>引き続き、系統性、連続性を重視しながら、取組の質的向上を図っていきます。</p>
<p>施策②-1 今後の方向性に「体育授業」とあるが、「体育科授業」の方が良いのではないかと。</p>	<p>小学校では「体育科」、中学校では「保健体育科」と教科名が異なるため、表記について検討します。</p>

〔基本的方向における総括：担当課年度末検証〕

<p>今年度の新体力テストの合計点では、小5男女および中2女子で全国・県平均を上回った。中2男子については全国平均を下回ったが、県平均を上回った。「幼児期からの運動遊び」や「豊岡市版小学校体育準備運動」を継続して取り組んできたこと、学校における運動機会の確保等が、児童生徒の体力・運動能力の維持につながっていると考える。 これからも、系統性と連続性を重視したこれらの取組を進めるとともに、授業内容を工夫して運動する楽しさや喜びを味わわせること、各領域で十分な運動量を確保することに努めていく。また、学校行事や業間など教育活動全体でも、体を動かす楽しさや心地よさを味わえる活動を継続的に取り入れていく。さらに、子どもたちが健康で安全な生活を送るために、家庭や関係機関と連携を図りながら、取組の充実を図っていく。</p>
--

第5次とよおか教育プラン(豊岡市教育振興基本計画)

2025年度実践計画検証総括シート

基本方針1	予測困難な時代を生き抜く力を育む教育の推進
基本的方向5	「生きる力の基礎」の育成
	乳幼児期において、生活や遊びといった直接的・具体的な体験を通じて、一体的に育みたい資質・能力の3つの柱「知識及び技能の基礎」「思考力、判断力、表現力等の基礎」「学びに向かう力、人間性等」が育まれることが重要である。 その実現に向けて、①健康な体をつくる力の育成、②人と関わる力の育成、③思いを伝える力の育成、④自然や身近な環境に関わる力の育成、⑤感性豊かに表現する力の育成に取り組む。

〔指標の検証〕

指標名	2024現状値	2025目標値	2025指標の実現状況
<input type="checkbox"/> 自ら体を動かして遊んでいる園児の割合 罫	—	80.0%	98.6%(+18.6P)
<input type="checkbox"/> 毎日朝食を食べている園児の割合	95.2%	97.4%	97.5%(+0.1P)○
<input type="checkbox"/> 自分の気持ちや考えていることを伝えている園児の割合 罫	—	80.0%	94.9%(+14.9P)
<input type="checkbox"/> 外で遊ぶことが好きな園児の割合 罫	—	80.0%	98.9%(+18.9P)
<input type="checkbox"/> 自分で工夫しながら夢中になって遊ぶことがある園児の割合 罫	—	80.0%	97.5%(+17.5P)
<input type="checkbox"/> 毎週1回以上、家庭で絵本の読み聞かせをしている家庭の割合	62.8%	67.1%	66.4%(−0.7P)○

■・・・全国学力・学習状況調査の児童生徒質問紙を用いて評価を行う指標。

□・・・各所管課の事業や独自調査などの結果により評価を行う指標。

※ 全国学力・学習状況調査

国・公・私立学校の小学6年生と中学3年生を対象に実施する、国語、算数・数学の教科に関する調査及び生活習慣や学習環境等に関する調査。(4月実施、7月結果公表)

※ 2025指標の実現状況のうち、()内は対2025目標差を、○印は2024現状値よりも改善した指標を表す。

担当課検証 (取組の継続等)	S 目標達成・取組完了 (目標達成、事業計画完了による取組終了)	検証委員検証 (担当課評価の 妥当性)	○ 妥当
	A 継続実施 (拡充・現行方法による継続実施)		△ 疑義あり
	B 改善実施 (取組の改善・見直しによる継続実施)		— 評価不能
	C 抜本的見直し (取組を継続する場合は抜本的な見直しが必要)		
D 取組廃止 (効果・必要性等から取組を廃止)			

〔施策と取組の自己検証〕

施策 ① 健康な体をつくる力の育成	中間検証			年度末検証	所管課	
	担当課	検証委員会				
		委員A	委員B			委員C
1 幼児期における運動遊びの充実	A	○	○	○	A	幼児育成課

施策 ② 人と関わる力の育成	中間検証			年度末検証	所管課	
	担当課	検証委員会				
		委員A	委員B			委員C
1 遊びを通じた人と関わる経験の積み重ね	A	○	○	○	A	幼児育成課

施策 ④ 自然や身近な環境に関わる力の育成	中間検証			年度末検証	所管課	
	担当課	検証委員会				
		委員A	委員B			委員C
1 自然や身近な環境に関わる経験の積み重ね	A	○	○	○	A	幼児育成課

〔委員中間検証の意見〕

〔担当課年度末検証〕

<p>施策①②④ 学校教育のみならず、地域教育として地域での取組を充実させることで、多様な参画者が増え、人と関わる・思いを伝える・感性を豊かにする等の効果がより得られるのではないかと考える。 例えば、地域の中のサークル活動や市民同士の学びの場がつかられていくと、多世代を巻き込み、お互いにより影響を与え合うコミュニティができるのではないかと感じた。</p>	<p>園においても地域の人との関わりは、社会性や協調性、思いやりの心を育む上で、とても大切なことだと考えています。また、地域の行事等への参加は、その経験が遊びや学びに繋がる良い機会になっていると感じます。今後も、様々な機会を捉えて、地域と一緒に子どもたちの成長を支えていけるよう、引き続き取組を行っていきます。</p>
<p>施策①-1 運動が苦手でも、遊びを通して、体を動かすことが好きになる方法を、保育者の私たちが意識して関わっていくことが大切だと思う。また、運動遊びの指導員の定期的な訪問指導に刺激を受けながら、今後も運動遊びを通して、自然に体を動かす遊びや活動を更に充実させていく取組を望む。</p>	<p>運動が苦手な子どもも遊びを通じて体を動かす楽しさを味わう経験を積み重ねていけるよう、指導員と園とが一緒になって取り組んでいくことが大切であると考えています。各園の巡回訪問等での運動遊びと日々の園で存分に体を動かす遊びとを合わせながら、全ての子どもたちが「体を動かすことが好き」になることを目指して、今後も園との情報共有や共通理解を図りながら、運動遊びの充実に努めていきます。</p>
<p>施策①-1 城崎地域では、こども園に移行してから、特に楽しく体を動かすことのできる時間が増えたと思う。</p>	<p>園で体を動かす時間が増えていることを感じていただき、大変嬉しく思います。このことを励みに子どもたちの心身の成長に繋がるよう、引き続き保護者等への啓発も工夫しながら運動遊びに取り組んでいきます。</p>
<p>施策②-1 遊びから学ぶこの時期に、様々な経験を重ねていくことで、人との関わり方を学んでいくと考える。様々な人と色々な場所で関わる機会を作り、思う存分遊ぶ経験を、日々積み重ねていくことにより、少しずつ蓄えられた心の財産が、非認知能力の根っことなり、生きる力に繋がると考えるため、今後も継続した取組を望む。 小中学生や地域の人と交流する機会が多く、とても良い取組だと思う。</p>	<p>子どもたちは遊びを通して様々な人と関わる中で、関わり方や相手の気持ちに気付くことなど、多くのことを学んでいます。小中学生の交流についても、憧れや「やってみたい」という意欲等を育む良い機会になっていると思います。今後も、地域や小中学生等、様々な人と関わる機会を大切にしながら、人と関わることの楽しさを味わったり大切さに気付いたりできるよう取組を進めていきます。</p>

施策④-1

子どもたちは、遊びや生活の中で日常的に自然環境と関わっている。自然に触れて、感動する経験を通して、自然の変化等を感じ取り、好奇心や探求心を持って考え、言葉等で表現しながら、身近な事象への関心が高まるとともに、環境に親しみや愛情を感じ、もっと関わりたいという思いが強くなっていくと思う。今後も子どもたちの姿を大切にしながら継続した取組を望む。

園児が自然の中に出掛けて活動する姿をよく見る。虫や植物など、個々の興味に寄り添った保育をされていると思う。

課題にあるように、今後ますます野生動物が出没するであろうことを考えると、職員の方々の臨機応変な対応が必要とされると思う。

自然と関わることは、子どもの感覚や好奇心を育てる上で、とても大切な体験だと考えています。今後も、自然や身近な環境に主体的に関われる環境を工夫しながら、子どもの興味・関心を大切に取り組んでいきます。また、野生動物の情報収集や対応策なども工夫しながら、引き続き豊かな自然と関わる体験が出来るよう努めていきます。

〔基本的方向における総括：担当課年度末検証〕

今年度、「第5次とよおか教育プラン」の施策と「第2次 スタンダード・カリキュラム」の育てたい力との整合性を図り、「生きる力の基礎」を育成するために、子どもたちに必要な力を焦点化し、教育・保育の実践に結びつきやすくした。今後も、子ども理解を深める研修を工夫しながら進め、子ども一人一人が主体的に「ひと・もの・こと」に関われる環境づくりと保育者の関わりを工夫し、子どもたちが存分に遊び込む中で「生きる力の基礎」の育成に努めていく。

第5次とよおか教育プラン(豊岡市教育振興基本計画)

2025年度実践計画検証総括シート

基本方針2	自分らしく安心して過ごせる学校園の創造と家庭・地域等との共創
基本的方向1	学校園・家庭・地域等の連携・協働の推進
	<p>子どもたちが自分らしく過ごし、豊かに学んでいくためには、学校園・家庭・地域が連携・協働し、地域社会全体で子どもの成長を支えていくという意識づくりが重要である。</p> <p>家庭は、日常生活におけるしつけや感性、情操を育む等すべての教育の出発点である。</p> <p>学校園は、子どもたち一人一人が「在りたい自分」を創造するために大変重要な役割を担う。</p> <p>学校園・関係機関は、子どもにとって望ましい基本的生活習慣や学習習慣を身に付けられるよう家庭と連携した取組を進め、不安を抱える保護者の相談・支援に取り組む必要がある。</p> <p>また、地域においては旧小学校区を基本に地域コミュニティ組織があり、子どもへの地域への愛着の醸成や地域行事への参加を促すような取組等、保護者や地域住民の教育活動への参画を学校とともに促進していくことが求められる。加えて、コミュニティ・スクール(学校運営協議会制度)の実効的な活用を推進していくことが重要である。</p> <p>その実現に向けて、①地域全体で子どもを育てる環境の充実、②地域コミュニティ組織と連携した学びの支援、③家庭の教育力向上のための支援に取り組む。</p>

〔指標の検証〕

指標名	2024現状値	2025目標値	2025指標の実現状況
<input checked="" type="checkbox"/> 普段の生活の中で、幸せな気持ちになることがある児童生徒の割合 <small>■</small>	小 93.5% 中 90.7%	小 96.7% 中 94.8%	小 95.4% (-1.3P)○ 中 94.3% (-0.5P)○
<input type="checkbox"/> 今住んでいる地域の行事に参加している児童生徒の割合 <small>□</small>	小 88.0% 中 68.0%	小 88.7% 中 84.0%	小 90.0% (+1.3P)○ 中 73.6% (-10.4P)○
<input checked="" type="checkbox"/> コミュニティ・スクールや地域学校協働活動等の取組によって、学校や地域や保護者の相互理解が深まったと思う学校の割合 <small>■</small>	小 31.8% 中 11.1%	小 41.7% 中 33.6%	小 31.8% (-9.9P) 中 44.4% (+10.8P)○
<input type="checkbox"/> PTCAあいさつ強化月間の取組参加者数 <small>□</small>	5月 5,114人 11月 5,263人	2024現状値以上	5月 4,778人(-336人) 11月 4,536人(-727人)
<input type="checkbox"/> 保育園・認定こども園待機児童数 <small>□</small>	2人 [2024.9.1現在]	0人	0人(±0人)○ [2025.9.1現在]
<input type="checkbox"/> 放課後児童クラブ待機児童数 <small>□</small>	2人 [2024.9.1現在]	0人	5人(+5人) [2025.9.1現在]

■・・・全国学力・学習状況調査の児童生徒質問紙を用いて評価を行う指標。

□・・・各所管課の事業や独自調査などの結果により評価を行う指標。

※ 全国学力・学習状況調査

国・公・私立学校の小学6年生と中学3年生を対象に実施する、国語、算数・数学の教科に関する調査及び生活習慣や学習環境等に関する調査。(4月実施、7月結果公表)

※ 2025指標の実現状況のうち、()内は対2025目標差を、○印は2024現状値よりも改善した指標を表す。

担当課検証 (取組の継続等)	S 目標達成・取組完了 (目標達成、事業計画完了による取組終了)	検証委員検証 (担当課評価の 妥当性)	○ 妥当
	A 継続実施 (拡充・現行方法による継続実施)		△ 疑義あり
	B 改善実施 (取組の改善・見直しによる継続実施)		— 評価不能
	C 抜本の見直し (取組を継続する場合は抜本的な見直しが必要)		
	D 取組廃止 (効果・必要性等から取組を廃止)		

〔施策と取組の自己検証〕

施策 ② 地域コミュニティと連携した学びの支援	中間検証			年度末検証	所管課	
	担当課	検証委員会				
		委員A	委員B			委員C
1 コミュニティ・スクールを核とした地域学校協働活動の充実	A	△	○	○	A	学校教育課

〔委員中間検証の意見〕

〔担当課年度末検証〕

<p>施策②-1 コミュニティ・スクールを起点として、地域の人々が担える役割をどんどん見出していることを伺い、とても可能性のある取組だと感じた。ただ、それについての情報発信の主なものが教育委員会だよりであることを聞き、もう少し市民に近い存在の媒体で発信されるとよいのではないかと感じた(コミュニティセンターや喫茶店にチラシを置く等)。</p> <p>地域の人と子どもが顔見知りになることで、子どもや学校の様子がよく見えるようになった。もともと、祭りや行事が多い地域であるので、地域と子どもがつながりやすく、自然な流れで取り組んでいる。地域の方に様々なことを経験させてもらう中で、子どもにとって、良い影響があるように感じた。</p> <p>コミュニティ・スクールのことについて、学校からの情報発信力を強化していかなければいけない。</p>	<p>現状の取組を継続し、子どもたちの居場所づくり、子どもたちが地域の伝統行事に触れる機会の充実のほか、学校が抱える課題解決のためにアイデアを出し合い、地域とともにある学校づくりをさらに進めていきます。</p> <p>ご意見をいただいた市教委や学校から地域への周知や情報発信について、内容や方法の工夫・改善を図っていきます。</p>
--	--

〔基本的方向における総括:担当課年度末検証〕

<p>学校運営協議会において、めざす子どもの姿や学校の課題を共有することで、地域全体で学校教育活動や子どもたちの成長を支えようという意識が少しずつ広まってきた。今後、地域全体で子どもを育てる環境づくり、家庭の教育力向上のための支援を充実させることが必要である。</p>
--

第5次とよおか教育プラン(豊岡市教育振興基本計画)

2025年度実践計画検証総括シート

基本方針2	自分らしく安心して過ごせる学校園の創造と家庭・地域等との共創
基本的方向2	安全・安心な教育の推進と教育環境の整備
	<p>子どもたちが安全・安心で快適な学校園生活を送ることができるよう、安全で質の高い教育環境の整備・充実や、安全教育・防災教育の推進を図ることが必要である。また、急激な少子化の進行による課題に対応するため、学校園の適正規模・適正配置を推進することも重要である。加えて、すべての子どもたちが未来に希望をもち、家庭の経済事情によって「学び」が止まることのないようにすることも大切である。</p> <p>その実現に向けて、①施設の計画的な改修とICT環境整備等教育環境の整備・充実、②通学(園)手段の確保、③安全教育・防災教育の推進、④学校園の再編、⑤就学・修学支援に取り組む。</p>

〔指標の検証〕

指標名	2024現状値	2025目標値	2025指標の実現状況
<input type="checkbox"/> 小学校体育館空調設備整備 ※義務教育学校含む ㊦	0校/22校	6校/22校 【小21校・義務1校】	6校/22校(±0校)○ 【小21校・義務1校】
<input type="checkbox"/> 児童生徒用トイレの洋式化 ㊦	洋式化率 44.0%	洋式化率 46.7%	洋式化率 46.7%(±0P)○

■・・・全国学力・学習状況調査の児童生徒質問紙を用いて評価を行う指標。

□・・・各所管課の事業や独自調査などの結果により評価を行う指標。

※ 全国学力・学習状況調査

国・公・私立学校の小学6年生と中学3年生を対象に実施する、国語、算数・数学の教科に関する調査及び生活習慣や学習環境等に関する調査。(4月実施、7月結果公表)

※ 2025指標の実現状況のうち、()内は対2025目標差を、○印は2024現状値よりも改善した指標を表す。

担当課検証 (取組の継続等)	S 目標達成・取組完了 (目標達成、事業計画完了による取組終了)	検証委員検証 (担当課評価の 妥当性)	○ 妥当
	A 継続実施 (拡充・現行方法による継続実施)		△ 疑義あり
	B 改善実施 (取組の改善・見直しによる継続実施)		— 評価不能
	C 抜本的見直し (取組を継続する場合は抜本的な見直しが必要)		
D 取組廃止 (効果・必要性等から取組を廃止)			

〔施策と取組の自己検証〕

施策 ① 施設の計画的な改修とICT環境整備等教育環境の整備・充実	中間検証			年度末検証	担当課	
	担当課	検証委員会				
		委員A	委員B			委員C
2 ICT環境の整備	A	○	○	○	A	教育施設課

施策 ④ 学校園の再編	中間検証			年度末検証	担当課	
	担当課	検証委員会				
		委員A	委員B			委員C
1 「豊岡市立小中学校適正規模・適正配置計画」に基づく学校再編の推進	B	○	○	○	B	教育施設課

〔委員中間検証の意見〕

〔担当課年度末検証〕

<p>施策①-2 更新されるソフトへの対応と同時に、日々多様化していく生徒や保護者の情報モラルの育成にも、一層取り組んでいくべきだと思う。</p>	<p>今後も、情報モラルに関する教職員研修の充実を図るとともに、生徒への指導や保護者との連携をさらに推進していきます。</p>
<p>施策④-1 合意形成に向け、今後も丁寧な取組を継続していただきたいと思う。(統合が無理に進んだ場合、子どもが被害者になる。)</p>	<p>但東地域の学校再編については、反対地域の保護者等と何度も意見交換を重ね、合意形成に向けた協議が進みつつある状況です。計画よりも遅れる見込みだが、引き続き丁寧に対応していきます。</p>
<p>施策④-1 児童の数が減少している中、学校再編は子どもの教育環境を整えるということで、非常に重要な政策であると考える。 学校の存在は、地域の活力という意味で大きな役割があると思うが、学校に通う児童の教育環境を重要視して、検討を進めるべきものと考えます。</p>	<p>学校再編については、2026年度で前期計画が終了し、2027年度から後期計画がスタートします。前期計画は概ね計画どおり進捗していますが、後期計画の対象地域との合意形成状況や地域からの新たな要望等を踏まえ、計画策定時の想定を上回る少子化の進行等、近況を反映したものに時点修正を行います。これにより、後期計画の再編時期をより明確にし、適切な時期に関係地域との協議を進めていきます。</p>

〔基本的方向における総括:担当課年度末検証〕

<p>施設の計画的な改修とICT環境整備等教育環境の整備・充実については、財政上の課題が多い中、計画どおり進んでいる。 また学校園の再編については、一部計画から遅れている状況である。地域住民や保護者の方に対し、丁寧に対応して理解をしていただきながら進めて行くことを前提としているため、対応の内容によりスケジュールが左右される現状がある。スケジュール管理の観点から、より頻繁にスケジュール管理の検証をすること等が必要と思われる。</p>

第5次とよおか教育プラン(豊岡市教育振興基本計画)

2025年度実践計画検証総括シート

基本方針2	自分らしく安心して過ごせる学校園の創造と家庭・地域等との共創
基本的方向3	教職員の資質・能力の向上
	<p>新しい時代に求められる資質・能力の育成や子どもたちの多様な学びを実現していくためにも、教職員の資質・能力の向上は必要である。教育環境が複雑化・多様化している中、教育に対する強い情熱・専門家としての確かな力量・豊かな人間性を備えた人材の確保・育成、学校園の接続を意識した日々の授業改善を軸とする系統的・組織的な研修体制の構築・推進は重要である。</p> <p>その実現に向けて、①教職員の資質と実践的指導力の向上、②園小接続の推進に向けた教職員研修、③多様性に配慮した教育・保育の推進に取り組む。</p>

〔指標の検証〕

指標名	2024現状値	2025目標値	2025指標の実現状況
<input checked="" type="checkbox"/> 先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思う児童生徒の割合	小 93.9% 中 93.4%	小 94.9% 中 95.4%	小 96.3% (+1.4P) ○ 中 94.6% (-0.8P) ○
<input checked="" type="checkbox"/> 困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できる児童生徒の割合 <input checked="" type="checkbox"/>	小 71.0% 中 69.0%	小 72.1% 中 72.5%	小 72.9% (+0.8P) ○ 中 75.7% (+3.2P) ○
<input type="checkbox"/> 授業中に学習に対する児童生徒の興味・関心を高めるために、コンピューターや提示装置を活用して資料などを効果的に提示できる教職員の割合	小[2023]93.1% 中[2023]87.3%	小 95.0% 中 90.4%	小[2024]95.6% (+0.6P) ○ 中[2024]92.6% (+2.2P) ○

■・・・ 全国学力・学習状況調査の児童生徒質問紙を用いて評価を行う指標。

□・・・ 各所管課の事業や独自調査などの結果により評価を行う指標。

※ 全国学力・学習状況調査

国・公・私立学校の小学6年生と中学3年生を対象に実施する、国語、算数・数学の教科に関する調査及び生活習慣や学習環境等に関する調査。(4月実施、7月結果公表)

※ 2025指標の実現状況のうち、()内は対2025目標差を、○印は2024現状値よりも改善した指標を表す。

担当課検証 (取組の継続等)	S 目標達成・取組完了 (目標達成、事業計画完了による取組終了)	検証委員検証 (担当課評価の 妥当性)	○ 妥当
	A 継続実施 (拡充・現行方法による継続実施)		△ 疑義あり
	B 改善実施 (取組の改善・見直しによる継続実施)		— 評価不能
	C 抜本的見直し (取組を継続する場合は抜本的な見直しが必要)		
D 取組廃止 (効果・必要性等から取組を廃止)			

〔施策と取組の自己検証〕

施策 ① 教職員の資質と実践的指導力の向上	中間検証			年度末検証	担当課	
	担当課	検証委員会				
		委員A	委員B			委員C
1 教員の指導力の向上を図る校内研修等の充実	A	○	○	○	A	学校教育課

〔委員中間検証の意見〕

〔担当課年度末検証〕

<p>施策①-1 校内研修の充実や教職員の資質・能力の向上のため、学校園等支援事業は、今後も必要であると思う。また、それぞれの各学校園にはそれぞれの特徴や特色が異なるため、校内・園内研修の相互参加も効果的であると考え</p>	<p>多様性の包摂の観点からも、様々な教育課題に対応していく知見等の習得は必須であります。各校が教育課題に向けて学識者を招聘して取り組む研究や研鑽への支援を継続します。また、各校の学びを、中学校区、さらには市内各校に広げる工夫を推進します。</p>
<p>施策①-1 教職員の不祥事が非常に多く、世間の目も厳しい。また、子どもたちの様子も少しずつ変化してきているので、現代の学校に即した教育活動を教職員ができるためにも、研修の充実は不可避であり、研修内容の精選も行っていかなければならないと思う。</p>	<p>ご意見のとおり、現代の学校に即した教育活動を推進するためにも、引き続き、学校や先生方のニーズに対応した研修を計画し、推進します。</p>

〔基本的方向における総括：担当課年度末検証〕

<p>一人一人の子どもたちに寄り添った教育を展開するためにも、教職員は、絶えず教育方法や指導方法を研修していく必要がある。「大人の学びは、子どもの学びの相似形」の言葉通り、主体的かつ目的が明確である研修体制の構築が大切である。今後も、教職員一人一人の資質能力と学校全体の組織力を向上させ、教職員が一丸となって迅速、かつ的確に対応する体制の強化に努める。</p>
--

第5次とよおか教育プラン(豊岡市教育振興基本計画)

2025年度実践計画検証総括シート

基本方針2	自分らしく安心して過ごせる学校園の創造と家庭・地域等との共創
基本的方向4	学校園の組織力の強化
	<p>一人一人の子どもに寄り添った教育の実現や複雑化・困難化する教育課題に適切に対応していくためには、教職員が心身ともに健康で最大限に能力を発揮できる環境整備が必要である。管理職のマネジメントのもと、教職員一人一人の力を組織的かつ機動的に生かした協働体制づくりや業務の効率化、健康の保持・増進等を含めた働きがいのある学校づくりを推進し、子どもたちの学びを充実させることが重要である。</p> <p>その実現に向けて、①学校園運営の効率化・組織化、②働きがいのある学校づくり、③教職員の健康管理に取り組む。</p>

〔指標の検証〕

指標名	2024現状値	2025目標値	2025指標の実現状況
<input checked="" type="checkbox"/> 学校運営の状況や課題を全教職員の間で共有し、改善に向けて学校として組織的に取り組んでいる学校の割合 <input type="checkbox"/>	小 81.8% 中 88.9%	小 2024現状値以上 中 2024現状値以上	小 86.4%(+4.6P)○ 中 77.8%(-11.1P)

■・・・全国学力・学習状況調査の児童生徒質問紙を用いて評価を行う指標。

□・・・各所管課の事業や独自調査などの結果により評価を行う指標。

※ 全国学力・学習状況調査

国・公・私立学校の小学6年生と中学3年生を対象に実施する、国語、算数・数学の教科に関する調査及び生活習慣や学習環境等に関する調査。(4月実施、7月結果公表)

※ 2025指標の実現状況のうち、()内は対2025目標差を、○印は2024現状値よりも改善した指標を表す。

担当課検証 (取組の継続等)	S 目標達成・取組完了 (目標達成、事業計画完了による取組終了)	検証委員検証 (担当課評価の 妥当性)	○ 妥当
	A 継続実施 (拡充・現行方法による継続実施)		△ 疑義あり
	B 改善実施 (取組の改善・見直しによる継続実施)		— 評価不能
	C 抜本的見直し (取組を継続する場合は抜本的な見直しが必要)		
D 取組廃止 (効果・必要性等から取組を廃止)			

〔施策と取組の自己検証〕

施策 ② 働きがいのある学校づくり	中間検証			年度末検証	担当課	
	担当課	検証委員会				
		委員A	委員B			委員C
1 学校園における働き方改革の推進	A	○	○	○	A	学校教育課

〔委員中間検証の意見〕

〔担当課年度末検証〕

<p>施策②-1 学校における働き方改革の推進において、関係者それぞれがそれぞれの立場から学校園における働き方改革につなげる、とある。この方向で進めるためには、学校運営協議会での合意形成が鍵を握ると考えるので、今後の方向性に、学校運営協議会を活用して、具体的な取組を進める等の文言を入れた方が良いのではないかと。</p>	<p>学校における働き方改革の推進については、保護者、地域住民等との連携が欠かせないことから、学校に対して、学校運営協議会の活用(協議)を依頼しているところです。ご意見については参考に検討します。</p>
<p>施策②-1 働き方改革について、各校での意識は高まってきており、細かな取組の積み上げの成果は出てきていると思う。中学校でいえば、やはり「部活の地域展開」の定着化が超過勤務時間の短縮に大きく左右することになると思う。この項にも組み入れていただき、市全体の取組へと拡大していただきたいと思う。</p>	<p>ご意見を参考に検討します。</p>
<p>施策②-1 働き方改革の本当の意味、目的を今一度理解する必要がある。教師としての存在意義や、充実感、やりがいを持っているか、そういったことが子どもたちとの向き合い方にも影響してくる。中身のある働き方改革を目指していただけたら良いと思う。</p>	<p>勤務時間の縮減のみにとどまらず、教職員向け各種研修内容の見直しや充実による教職員の資質向上を目指していくことが重要であると考えています。</p>

〔基本的方向における総括:担当課年度末検証〕

<p>管理職のマネジメントと関係者それぞれの協力・参画により、引き続き、業務の効率化、教職員の健康の保持・増進等を含めた働きがいのある学校づくりを推進し、子どもたちの学びの充実を図る。</p>
--